

議事日程 (第5号)

令和6年12月16日 午前10時0分開議

日程第1 一般質問

15番 赤木 貴尚 議員

6番 中原 正博 議員

本日の会議に付した事件

(議事日程第5号に同じ)

出席議員 (16名)

1番 松本 順子君	2番 樋口伊久磨君
3番 武原由里子君	4番 山口 欽秀君
5番 山内 豊君	6番 中原 正博君
7番 山川 忠久君	8番 植村 圭司君
9番 清水 修君	10番 土谷 勇二君
11番 音嶋 正吾君	12番 豊坂 敏文君
13番 中田 恭一君	14番 市山 繁君
15番 赤木 貴尚君	16番 小金丸益明君

欠席議員 (なし)

欠 員 (なし)

事務局出席職員職氏名

議会事務局局長 村田 靖君 議会事務局次長 松永 淳志君
議会事務局書記 柳原 隆次君

説明のため出席した者の職氏名

市長 篠原 一生君 副市長 中上 良二君

教育長	……………	山口 千樹君	総務部部长	……………	平田 英貴君
企画振興部部长	……………	塚本 和広君	市民部部长	……………	吉田 博之君
保健環境部部长	……………	草合 正吉君	農林水産部部长	……………	松嶋 要次君
建設部部长	……………	平本 善広君	消防本部消防長	……………	山川 康君
教育次長	……………	目良 顕隆君	総務課課長	……………	横山 将司君
財政課課長	……………	原 裕治君	会計管理者	……………	篠崎 昭子君

午前10時00分開議

○議長（小金丸益明君） 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員は16名であり、定足数に達しております。

これより本日の会議を開きます。

日程第1. 一般質問

○議長（小金丸益明君） 日程第1、一般質問を行います。

15番、赤木貴尚議員の登壇をお願いします。

〔赤木 貴尚議員 一般質問席 登壇〕

○議員（15番 赤木 貴尚君） 皆さん、おはようございます。一般質問3日目ということで、今回は全部で12名の議員による一般質問が行われています。私は最後から2番目ということで、本日は私と中原議員の一般質問ということで、答弁のほうをよろしく願いいたします。

それでは、15番、赤木貴尚が、通告に従いまして一般質問を行いたいと思います。

まず最初に通告外の質問を1点、ちょっと行いたいと思っております。お許しをいただいて、通告外に1つ質問したいと思っておりますが、先日、春の選抜甲子園の九州地区の推薦校に壱岐高校が選ばれました。

それによって、今度、全国から9地区の中から2校だけが、春の選抜の21世紀枠という枠で選ばれるわけですが、その21世紀枠というか甲子園に行くための費用について、少しお話をしていきたいと思うんですが、インターネットの中に、「Number Web」という、「Number」という雑誌の記事がありまして、その中に、甲子園出場の経費はというような特集記事がございました。本土の高校が行くのに、約、大体2,000万円ぐらいかかるというような記事でした。

その内訳も特集記事で書かれていまして、その「Number Web」という「Number」という雑誌のウェブ版なんですが、その中には、やはり選手のヘルメットからバットから、そして応援の吹奏楽部の経費とか、そういうものを含めて、大体、本土で2,000万円ぐらい

かかるだろうというような記事でございました。

やはり今回、甲子園に決定すると、それぐらいの金額が本土ではかかるよというところで、壱岐から行くとしたら、どれくらいかかるんだろうということは、しっかり試算していかなければいけないし、その分の費用がかかるというところですよ。

やはり、今、後援会が立ち上がったとか、そういうところで募金活動をしたりして、お金を集めることもしなければいけないということで、いろんな方々が携わって、甲子園に行く場合は、その費用をどうにかして捻出しなければいけないと。

壱岐市においても何かできないかなというところは、考えていかなければいけないと思うんですが、今回、私のほうで一つ提案というか、提案したいのですが、これをふるさと納税でできないかなというふうに考えております。

ふるさと納税でできるのかというところで、ちょっと調べてみますと、栃木県の県立高校が甲子園に行くということで、下野市というところだと思っておりますが、ふるさと納税で、そういう甲子園に行くための費用をサポートしているような自治体もございました。

近隣では、佐賀県の有田町とか基山町も、そういうふるさと納税で甲子園に行くための経費の一部を応援しているような、ふるさと納税の活用方法もございました。壱岐市で、できればできないかなというところがございます。

ただ、甲子園だけのために使うためのものではなくて、ふるさと納税は、いろいろな使用目的があるわけですが、ただ今回、甲子園、じゃあ甲子園に行くのに大体どういう効果があるのかというのを調べてみますと、やはり大きなのは経済効果だなと思いました。

これは、壱岐という地名が、やはり全国に知れ渡って、甲子園の期間中、壱岐高校という名前が流れたりするわけなんですけど、本当に経済効果、あと文化的な影響ということで地名度が向上したり、地域がそれだけ盛り上がっているよというのをテレビで特集されたりとか、そういう場面で、また壱岐が出ていくと。

やはり、あとは社会的影響ということで、地域の住民がそのために協力することによって地域が一つになる、壱岐の島が1つになって、甲子園に向かって頑張ろうというような機運が高まっていくというような、そういう幾つかの効果があるというところでは、このふるさと納税を活用しての甲子園へ行くためのサポートを壱岐市ができるのではないかなと思っております。

しかしながら、本当、甲子園だけのためにそういうふうにするのではなくて、子どものためのということであれば、ふるさと納税の使用方法にもほかにもあるんですが、今、結構スポーツとかで盛り上がっているんですけど、実は文化的な面も壱岐市では頑張っていて、非常に経費がかかる場所もあります。

甲子園へ行くこともそうですけども、文化的な面でいうと、例えば商業高校の太鼓部なんかも、

太鼓の1個です。太鼓、小さくても30万円ぐらいしますし、大きいものだと100万円単位でかかったりとかします。

あと、公立でいうと、郷ノ浦中学校の吹奏楽部なんかも、楽器が、盈科小学校時代の、昭和四十五、六年時代の楽器をいまだに使っていて、それで動きも悪いけれども一生懸命演奏しているのも、以前、予算特別委員会でも私もこのことを指摘しましたが、そういう面に使ったりとか、とにかく今回、ふるさと納税で、そういうふうにも子どもの支援を、本当に具体的なところでできないかなというのを、今回、甲子園の枠と含めて、ぜひ新設してできないかなというのを、一つ提案したいと思います。

壱岐高校の甲子園の決定は1月の24日です。これまで、この日が決まると、いろんな活動をもっと活発にしていかなければいけないというところで、今回、ふるさと納税の活用ができないかなと思っております。

このことについて確実な答えは、今、出せないと思いますが、可能性としてどうかなというところで、御答弁をいただければ助かりますが、市長、いかがでしょうか。

○議長（小金丸益明君） 通告外ですけれども、執行部、答弁できますでしょうか。篠原市長。

〔市長（篠原 一生君） 登壇〕

○市長（篠原 一生君） おはようございます。赤木議員の御質問について、お答えさせていただきます。

九州の候補、21世紀枠に選ばれたことは大変うれしく思っておりまして、本当に誇りに思っているところであります。市民皆様、そして壱岐出身者の皆様、また日頃から壱岐を応援していただいている皆様、皆様が本当に喜ばれている、とても明るいニュースだというふうに考えております。

ふるさと納税の活用につきましては、実は先日、樋口議員から御質問があった際に、他市の事例を研究しているというところで、歳出の仕方だったり、内容について検討していたところなんですけれども、一方で財源についても検討していたところでございます。

まず、今回の甲子園の応援というところに関しては、期間限定というような形で、ガバメントクラウドファンディングが活用できないかなというところで、現在、検討しているところでございます。

また、今回の高校の野球部に限らず、子どもたちに対しての基金といいますか応援の方法として、このふるさと納税を活用できないかというところは、一部、企業様のほうからそういったことも、ふるさと納税で応援できないかという相談もあっておりましたので、企業版ふるさと納税に関しても、今、検討を進めているところでございます。

今すぐというわけではないんですけれども、一方でふるさと納税です。12月が一番の駆け込

み時期というのもありますので、早急に検討して、機を逸しないように取組をしたいと思っております。

以上でございます。

〔市長（篠原 一生君） 降壇〕

○議長（小金丸益明君） 赤木議員。

○議員（15番 赤木 貴尚君） 通告外にも関わらず、御答弁いただきましてありがとうございます。大変失礼いたしました。

使用目的は、本当、多岐にわたっていいと思いますし、本当、いろんな面を私たちもしっかり提案していきますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、通告に戻って質問したいと思います。

本日は、2点質問していきたいと思います。

まず1点目は、年収の壁についてということで、国会のほうで、今、いろんな話を話し合われているところですが、これによつての税収がいかに減るかというようなところを御答弁いただきたいなと思っております。

しかしながら国の動向にもよるところなので、深くはなかなか議論できないところではございますが、市民の一つ関心があるところなので、お聞きしたいと思います。

2点目は、壱岐での映画やドラマ撮影とか、そういうものの可能性について質問していきたいと思ひます。

それでは、まず1点目、年収の壁についてということで、大きくメディアで「103万円の壁」というようなところが言われていますので、今回、質問の事項に書きました。

まず、国民民主党が主張しております年収の壁をめぐって、政府が、所得税や住民税の制度を見直すことが話し合われております。地方自治体の減収が5兆円強になるというような試算があったり、地方での打撃が大きいというようなこともございます。4兆円程度の住民税と国税を原資とする1兆円強の地方公税もなくなるのではないかとというようなことも出ております。

まず、壱岐市の行政サービスの低下や財政悪化への影響がないかどうか、現時点での壱岐市の考えをお聞きしたいと思います。

まず1点目に、壱岐市の税収の減収はどのくらいと考えるのかと。

2点目に、年収の壁を避けるために、パートタイムや非正規雇用を選ぶ人が増え、社会保障費の負担が増え、壱岐市での福祉サービスや医療費の負担が増えたりしないのかということ。

3点目に、壱岐市地域の経済への影響はないのかということ。

4点目に、年収の壁によつて、壱岐市への様々な悪影響に対する施策はあるのかというところで、なかなか国の動向がはっきりしない中で答弁は難しいと思ひますが、現時点で答えられるとこ

ろをお答えいただきたいと思います。執行部の答弁を求めます。

○議長（小金丸益明君） 赤木貴尚議員の質問に対する執行部の答弁を求めます。吉田市民部長。

〔市民部部長（吉田 博之君） 登壇〕

○市民部部長（吉田 博之君） それでは、15番、赤木議員の御質問に、現時点ということでお答えさせていただきたいと思います。

まず①、4点ほどありますが、①、③、④につきまして、私、市民部のほうからお答えさせていただきたいと思います。②につきましては、医療費の負担の関係がありますので、保健環境部のほうからお答えするようにしておりますので、御了承をお願いしたいと思います。

まず、①の、壱岐市の税収の減収はどのくらいと考えるかということでございます。

現時点の壱岐市の、今回の制度見直しを伴う住民税の減収額は、県民税を除く市民税分のみで約3億2,000万円というふうに見込んでおります。かなり大きな金額ということ、今のところ見込んでおります。

納税義務者数では、所得割り課税者が約9,300人から5,900人、3,300人ほど減少するのではないかと見込んでおります。均等割り課税者が約1万600人から4,100人と、約6,400人ほど減少を見込んでおります。非常に厳しい数字だということは考えております。

次に、③に飛びまして、壱岐市の地域の経済の影響はということでございます。

これは、もう皆さんも予想できることだと思っておりますが、壱岐市に限ったことではございませんが、地域経済に与えるプラス影響としましては、働き控えがなくなることで人手不足の緩和が期待されること、それから、可処分所得が増加することで消費が増え、地域経済が活性化することが期待されます。

一方で、こちらもお分かりだと思いますけれども、マイナスの影響としましては税収が減少する、このことによる公共サービスの低下というのは考えられると思っております。

最後に、4番目の年収の壁によって、壱岐市への様々な悪影響に対する施策についての御質問でございます。

現時点で年収の壁について決定していることにつきましては、見直しが行われるということでありまして、見直しの影響につきましては、市役所全体でしっかりと検証した上で、対策、施策の必要があると考えております。

必要に応じましては議会にお諮りをする、そして実施するということになると考えておりますので、御承知を願いたいと思います。

以上です。

〔市民部部長（吉田 博之君） 降壇〕

○議長（小金丸益明君） 草合保健環境部長。

〔保健環境部部長（草合 正吉君） 登壇〕

○保健環境部部長（草合 正吉君） 15番、赤木議員の年収の壁に関する御質問の2番目の、年収の壁を避けるためにパートタイムや非正規雇用を選ぶ人が増えることで、社会保障費の負担が増え、壱岐市での福祉サービスや医療費の負担が増えたりしないのかとの御質問にお答えをいたします。

パートタイムや非正規雇用を選ぶ人が増えることによる影響もございますが、住民税非課税者、住民税非課税世帯が増えることによって、医療費、介護サービス費等の負担限度額が引下げになるため、その分、公費での負担が増えることが想定されます。また、介護保険料の軽減に該当する方が増えるため、その分の公費負担も増えることとなります。

これらにつきましては、国の年収の壁に関する制度の見直しの際に、個人や自治体の負担とならないよう、県や他の自治体とともに、国に対してしっかりと働きかけてまいります。

以上でございます。

〔保健環境部部長（草合 正吉君） 降壇〕

○議長（小金丸益明君） 赤木議員。

○議員（15番 赤木 貴尚君） 答弁ありがとうございました。現時点で答えられるというところは、そういうところだと思います。

国のほうは、12月の11日に、自民・公明・国民民主の3党が合意の文書を言われております。「103万円の壁」というのは、国民民主の主張する178万円を目指して、来年から引き上げるところです。そして、ガソリンの暫定利率は廃止するということと、そういうことを具体的に実施する方法については、引き続き関係者間で誠実に協議を進めるということになっているということでした。

2025年から引き上げるということで合意したということが発表されておりますので、2025年の引上げの時点で、また新たに試算をしながら、その部分で、壱岐市民の、いわゆる住民サービスに影響が出ないように壱岐市は考えなければいけないし、それ以外に関しては、国にしっかりと働きかけて、国からきちんと援助というのをしてもらえることは、国の働きかけ、それは私たちもそうですけれども、国に対してしっかりといろんな要望や陳情をしなければいけないと思っております。

市民にとっては、働けるという可能性が増えることや、それによって消費が増える、消費、買うものが増えたりするといういい影響もありながら、逆に税収の減収によって市民サービスが低下してしまうのが不安なところであって、市民はどっちにどうなっても、転んでも、いろんな方法を対策しなければいけないのですけれども、とにかく住民サービスが低下しないということだけは、しっかり私たち議員も、しっかり見届けて、注視しながら、執行部にはしっかりした予算

計画を立てていただいて、そこを私たちは、本当、市民に影響がないように提案できることは提案して、国に働きかけることだけは国に働きかけなければいけないというところだと思います。

現時点での答弁はそこまでということで、これ以上は答弁を求めませんが、2025年の動きにしっかり注視していかなければいけないと思いますので、今後ともよろしくお願いたします。

それでは2点目の質問に移りたいと思います。

2点目は、がらっと変わりました、2点目は、壱岐での映画やドラマ撮影、アニメの題材としての誘致の取組ということで、これ、フィルムコミッションという事業がございまして、横文字なので分かりにくいので、大きな質問事項ということで、壱岐での映画やドラマ撮影、アニメ題材としての誘致の取組をとということにしております。

内容は、1990年代から一部の自治体が、映画、ドラマの撮影場所として関係者を誘致し始めた、フィルムコミッションという事業があります。映像を通じて地域の魅力を発信されて経済効果も期待できる、地方活性化につながるということで行われている事業ですが、このことについて、壱岐市の取組や考えを伺いたいと思っております。

まず1点目は、壱岐市のフィルムコミッション事業内容についての認識はどうかということと、2番目に、過去に壱岐で撮影等を行われた実績はあるのか。3番目に、長崎県内の他市町の、市町村でもいいんですが——の状況はどうかということと、4番目に、壱岐市の映画、ドラマなど、ロケ地やアニメの題材としての可能性はどれくらいあるのかということと、5つ目に、壱岐市でのフィルムコミッション事業を推進する考えはあるのかという5点を質問したいと思いますので、執行部の答弁をお願いいたします。

○議長（小金丸益明君） 塚本企画振興部長。

〔企画振興部部長（塚本 和広君） 登壇〕

○企画振興部部長（塚本 和広君） 15番、赤木議員の御質問にお答えいたします。

まず1つ目の、壱岐市のフィルムコミッション事業内容についての認識はどの質問にお答えいたします。

映画、テレビドラマ、CM、ドキュメンタリーなどの映像作品の撮影を支援するための組織であり、主に撮影誘致、撮影支援、地域振興を担う組織と認識いたしております。

撮影誘致といたしましては、地域のロケ地を映像制作会社に紹介し、撮影地として選ばれるようにする役割、撮影支援といたしましては、撮影許可の取得手続、地域住民との調整、機材やスタッフの宿泊先手配、地元エキストラの募集など、撮影隊が円滑に作業できるようサポートを行う役割、地域振興といたしましては、映像作品を通じて地域の魅力を発信し、観光振興や地域経済の活性化を目指す役割、以上をフィルムコミッション事業内容であると認識いたしております。

次に、2つ目の、過去、壱岐で撮影等を行われた実績はあるかとの質問にお答えいたします。

38年前の昭和61年に公開された映画「波光きらめく果て」や、16年前の平成20年に公開された映画「奈緒子」が壱岐市内で撮影されております。

これらの作品では、壱岐の自然や風景が物語の重要な舞台として使用され、地域の魅力が映像を通じて広く発信されたものと考えております。

次に、3つ目の長崎県内、他市町の状況はどの質問にお答えいたします。

今年の状況については、今年の1月から3月まで放送されたフジテレビ放送のドラマ「君が心をくれたから」が長崎市で撮影されました。また、今年8月30日に公開されたアニメ映画「きみの色」が長崎市、佐世保市、五島市、新上五島町の協力を得て制作されています。今年10月から放送中の日曜劇場「海に眠るダイヤモンド」が長崎市の協力の下、軍艦島が撮影場所として活用されています。さらに、来年の1月10日に公開予定の映画「孤独のグルメ」の一部が、五島市で行われております。

長崎県全体としては、年間平均2から3本程度の映画が長崎県内で撮影されていると伺っております。こうした映像作品を通じて、長崎県の魅力が広く発信されている状況です。

次に、4つ目の壱岐市の映画、ドラマなど、ロケ地やアニメ題材としての可能性はどの質問にお答えいたします。

壱岐市には、映画やドラマのロケ地、アニメの題材として活用される可能性はあるものと考えております。

具体的例として、九州福岡を拠点に活動するアイドルグループのミュージックビデオが、3年前に、壱岐市の鬼の足跡や小島神社などで撮影されました。この映像作品は、聖地巡礼コースとして壱岐観光ナビに掲載しており、観光誘致に寄与いたしております。

また、ゲーム「ゴースト・オブ・ツシマ」では、壱岐が物語の舞台の一部として登場しており、こうした作品を通じて、壱岐の名前や魅力が国内外に発信されております。これらの映像作品やゲームをきっかけに、いわゆる聖地巡礼として観光客が訪れる可能性があるかと期待しております。

次に、5つ目の壱岐市でフィルムコミッション事業を推進する考えはあるかとの質問にお答えいたします。

映画やドラマなどの映像作品を通じて、観光PRや地域経済の活性化の可能性については十分理解いたしております。しかし現時点では、市の人員体制や専門知識の不足により、独立したフィルムコミッションを運営するのは困難と考えております。

一方で、長崎県フィルムコミッションより情報提供があった際には、可能な限り映像制作会社等と連携し、壱岐市の魅力を映像作品を通じて発信する取組を支援してまいりたいと考えております。

また、壱岐市東京事務所と壱岐市観光連盟が連携し、情報発信において最も影響力がある首都

圏をターゲットとして、首都圏におけるメディア対策強化事業を実施し、テレビ番組制作会社、雑誌社、ウェブ系メディアへ営業誘致を図り、昨年度実績でテレビ8件、ウェブ3件、雑誌3件を取り扱っていただいたところです。

今後も関係各機関と連携しながら、映像作品等制作事業者等のメディア誘致や、情報発信に取り組んでまいります。

以上でございます。

〔企画振興部部長（塚本 和広君） 降壇〕

○議長（小金丸益明君） 赤木議員。

○議員（15番 赤木 貴尚君） このフィルムコミッション事業です。横文字で言うと、ちょっと何か分かりにくいんですけど、要は映画やテレビや漫画とかドラマ、ゲームに壱岐市がどれくらい出ているのかと、しっかり出してほしいなというような質問なんですけども、正直、もう足りません。足りない。

もっと出てほしいはずと思っていますし、他市、長崎県内です。すごく隣がよく見えるわけではないですが、五島市なんかの取組も、また後で言いますが、取り組んでいるのか、勝手に取り上げられているのか分かりませんが、すごい経済効果等あるので、しっかり、そこを今から話していきたいと思いますが、正直もう足りないので、しっかり頑張してほしいと。

篠原市長になられて新しい取組を一つして、ぜひこのフィルムコミッション、映画やテレビにもっと出てほしいなと思っています。

なぜ、こういうふうに言うのかということ、非常に夢があるということです。夢があるし、代々語り継がれていくというようなところで、いろんな場面で話が盛り上がると。

今から、じゃあ過去のお話を、ちょっと少ししていきますけれども、答弁にもございました今から38年前、「波光きらめく果て」というのがございました。私が高校生だったときだと思いますが、今から38年前です。

ちょっと作ってきました。なかなか小さくて見えませんが、これは38年前に、壱岐高校の野球部が題材でした。壱岐高校の野球部の監督が、当時、渡瀬恒彦さんで、それに関係する方が松坂慶子さんで、壱岐高校だったり壱岐全体です。石田町の民家を借りて撮影が行われたりとかしたのが、今から38年前です。

今、壱岐高校の野球部が甲子園に行くか行かないかで盛り上がっていて、ここで、また壱岐高校の関係する映画の話をするとは思いませんでしたが、この点で、ぜひ壱岐高校が甲子園に行くときは、松坂慶子さんと呼んで、当時の壱岐高校野球部が撮影協力していますので、その当時の思い出話をするトークショーなんかを開かれてもいいんじゃないかなと勝手に思っているところですが、これが今から38年前です。

そして、答弁では16年前の「奈緒子」のお話がされましたが、その前に1点、28年前に「MUSASHI 宮本武蔵外伝」というのがありました。これ、当時の壱岐市観光協会の青年部等が協力したりとかして、このときの出演者はスティーブン・セガールの娘さんが主役で、あと宮下順子さんとかが来られていました。

私はこのとき観光協会の青年部にいまして、何かバーベキューをしたり、筒城のところでいろんな交流があったのを覚えておりますが、これが今から28年前です。DVDも出ております。筒城浜が主で当時の撮影が行われたと。

そして、一番新しいところでいうと今から16年前です。「奈緒子」です。これ、2008年の撮影で、上野樹里、三浦春馬、笑福亭鶴瓶とか綾野剛とか、そういう方が出ておられました。これは今、壱岐観光連盟の中で、聖地巡礼のコースが書かれたりとか、ここにも書いていますが、福寿飯店さんには、当時の三浦春馬が食べた排骨麺というのを、いまだに食べに来る方がおられたりとか、鬼凧工房にも当時の三浦春馬さんをしのんで来られたりとか、本当に、この「奈緒子」に関しては、いまだに聖地巡礼が行われているというところですよ。

それでも、今からもう16年前の話で、ここも壱岐高校のグラウンドを使ったりとか郷ノ浦大橋を使ったりとか、そういう撮影が行われております。いまだに聖地巡礼ということで、当時をしのんで壱岐を訪れる方がおられるというところですよ。

テレビドラマもありました。松永安左エ門さんが題材になった「経世済民の男 鬼と呼ばれた男」ということで、松永安左エ門ということ、これ、NHKでありました。これ、撮影は壱岐ではなかったですけども、大きな話題を読んだドラマでした。

可能性としては、この松永安左エ門さんなんかは、本当にNHKの連続ドラマだとか朝ドラとか、十分可能性があるんじゃないかなと、私のほうで勝手に思っておりますが、この朝ドラの誘致というのは、自治体でもやってあるところがございます。

実際、朝ドラを誘致をする会というところで、今、行われている自治体もあって、何か新幹線を走らせた方の自治体が、ちょっと今、手元に資料がありませんが、自治体によっては、その誘致をする会というのが立ち上げられて、朝ドラの誘致をしてあると。

松永安左エ門さんに関しては、ぜひそういう題材にもなり得ると思いますので、現時点での、壱岐市においての独立したフィルムコミッションの取組はできないというところの答弁がありました。確かに経費がかかるので、非常に厳しいところではございますが、今後、博物館を建てたりするに当たっては、やはりそういうストーリー、題材としてテレビで取り上げてもらうというのはすごくいいことではないかなと思っておりますので、ぜひ進めていただきたいなと思っております。

ちょっと、お隣の五島市さんの取組を伝えたいと思うんですが、隣がよく見えるわけではない

んですが、先ほどありました、答弁にもありました「孤独のグルメ」です。この「孤独のグルメ」が、今度、五島市で撮影したのが映画化されます。これ、五島市だけではなくてフランスとかも行くそうなんです、これ、この主人公の方が福岡の方です。松重さんだったと思うんですが、この方が、実際、映画監督で撮られて撮影をするということで、非常に視聴者も多くて、私も特集のときはよく見えています。

料理を食べる番組で、実際これ、本当、五島が取り上げられると、五島を訪れる方が多いのではないかなと思っておりますが、実は先日、壱岐市の商工会青年部が、壱岐・対馬・五島3島を巡る3島交流というような事業で五島市に行ったそうです。この撮影のことも含めて、実は五島市に、今、観光客が多かったと。女優の川口春菜さんのことも触れたりとか、そのほか、五島は「舞いあがれ！」とか、「ばらかもん」とか、映画の「くちびるに歌を」とか、「悪人」とか、アニメの「蒼の彼方フォーリズム」とか、非常に五島全体ですけど、五島を取り上げた、いわゆるドラマだったり映画だったりアニメが多いということで、その聖地巡礼に、多く最近訪れられている方が多かったというような報告も受けております。

ぜひ壱岐市も、何か本当にそういうきっかけ、今から最近だと16年前のその「奈緒子」が最後です。ぜひ、どうにかして取り上げられてほしいなと思っております。

これ、なかなか個人の力では無理です、行政の働きかけや、それに関係する方たちにアクションを起こして、何か壱岐に、壱岐を題材にできないのかと。

具体的に言うところだと、松永安左エ門さんなんかどうかなとか、そういう提案を、ぜひしていただいでできないかなと思っております。非常に夢があることなので、実現してほしいなと思っております。

先ほどの答弁にございましたが、今、日曜日の日曜劇場ですか、「海に眠るダイヤモンド」ということで、長崎の端島——いわゆる軍艦島です——を題材とされたドラマが非常に人気があって、先日、私も軍艦島行きのフェリーを遠くから見ていましたけど、本当に多くの方が軍艦島を見に行かれる方が多いということで、軍艦島のコンシェルジュさんの話がネットに載っていました。ドラマの初回放送日には、ホームページのアクセスが1日に2万件と、通常の450%超えになったということです。

放送されたおかげによって、軍艦島上陸ツアーというのは、もう予約が殺到しているということで、これは11月の時点ですが、2週間先まで満席というような話でした。非常に、やはりその効果が大きいのだなと思いました。

今回、フィルムコミッションを、これ何で提案しようかなと思ったら、実は先日、産業建設常任委員会で、姉妹都市の長野県諏訪市を訪れました。そのときに議会事務局の方から、立石公園というのがあって、そこが非常に観光客というか外国の方、インバウンド等でにぎわっていると

ということで、正直、ぴんとは来なかったのですが、「君の名は。」というアニメがありまして、そこの撮影というか、そこが題材になっている公園があるというところでした。

それは、「君の名は。」というアニメの中で、男の子と女の子が出会っていて、その遠くに見えるのが、いわゆる諏訪湖だったというところで、その同じように見えるのが立石公園という、この諏訪湖が遠くに見えるところですよということで御案内していただいて、行きました。

そうすると、本当に普通の公園なんです。普通の公園というのは普通の公園なので、それ以上もこれ以上も言えないんですけども、壱岐でいうと金比羅公園というところなんですか。金比羅公園、武生水保育所のところにある公園で、その下に郷ノ浦湾が見えるようなところのロケーションです。そこがこのアニメの、いわゆる題材になっているということで、外国人や日本人の方たちが多く訪れてありました。

ちょうど、私たち産業建設常任委員会が行ったのが夕方だったので、まさしくこのような夕日の見える瞬間で、本当にそういうふうに取り上げられることによって、これだけの多くの人に来るんだなということを確認したところです。

本当に取り上げられ方は、映画にしてもアニメにしてもドラマにしても、どういう形であっても、本当にそれを求めて来る方がおられるというところですよ。

一体、取り上げられたことによって、どういう効果があるかなというところなんですけど、これ、先ほども甲子園に行ったときのことと同じような言葉を使っております。

まず、経済効果です。撮影地が作品の舞台になることで、多くのファンや観光客が訪れるようになります。これによって地域の観光業が活性化して、宿泊施設や飲食店などの関連産業が潤うということです。

次に、地域の活性化。撮影期間中は、スタッフやキャストが滞在することで地元の消費が増えると。また地域の特色を生かした商品やサービスが注目されることも多いということです。

これ、地域の活性化というところでは、前回の「奈緒子」のときは、これは郷ノ浦町の郷ノ浦港に近いところに宿泊、三浦春馬さんとかは宿泊して、スタッフもです。近くの飲食店で食事をされたというのが私の当時の記憶です。

次に、文化的影響。これ、地域の知名度の向上です。映画やドラマのアニメの舞台になることで、全国的に、または世界的に、これ世界的にというのは、先ほどの長野県の諏訪湖なんですけど、これ、世界にも発信されているということで、外国人も来ております。世界的に地域の知名度が高まると。これによって地域の文化や伝統が広く知られるようになるということです。

地域のブランディング、作品を通じて地域が特定のイメージやストーリーと結びつけられることで、地域ブランドの強化が図られます。これによって地域の魅力が、より一層引き立てられるというところにあるということです。

そして、次に、社会的影響。これは地域の住民との撮影の協力と参加。撮影に関して地元の住民がエキストラで参加したり撮影に協力することがあると。これによって、地域全体の一体感や連帯感が高まると。

次に、教育的効果。撮影の過程を通じて、地元の子どもたちが映画やドラマ、アニメの制作の現場を見学したり、実際に体験する機会が増えると。これによって、メディアやエンターテインメント業界の理解が深まるということです。

最後に環境への影響。環境保全の重要性で、撮影による環境への影響を最小限に抑えるために環境保護の意識が高まると。自治体や撮影クルーが協力して自然環境を守る取組が行われることがあるというようなことです。

こういうふうに経済、文化、社会、環境への影響が大きいということで、映画やドラマの撮影、アニメの題材によって壱岐市が取り上げられると、こういうような効果があるよということです。

これは、実は甲子園に行くことも一つつながるといところです。非常に効果が高いということで、こういうことを、ぜひ取り組んでほしいというのが本日の質問でございます。

以上、私によるプレゼンテーションですが、市長の心に響いたかどうか分かりませんが、市長の答弁を求めたいと思います。取り組んでほしいといところが一つですが、なかなか取り組むといっても、なかなか引っかかるというか、撮影する方たちに、どうアプローチするかということですが、現状の情報発信、それ以外にも何か具体的なことをぜひ取り組んでほしいなと思いますし、私は先ほどから、松永安左エ門さんの題材なんかはいいのではないかといところをお伝えしているところですが、具体的にどうこうは言えないと思いますが、本日の私のプレゼンテーションが、どのように市長の心に響いたか分かりませんが、市長の御答弁をいただきたいと思しますのでよろしく願いいたします。

○議長（小金丸益明君） 篠原市長。

○市長（篠原 一生君） 赤木議員の御質問にお答えします。

赤木議員のプレゼンはとても分かりやすく、熱を感じるものでした。私も以前、福岡市役所で働いているときに、隣の課がフィルムコミッションをやっていたと、ちょうどはやってたというか、そういう時期ではあったんですけども、先ほど、赤木議員がおっしゃられたように、映画が当たるか当たらないかで大きく違うといところで、福岡市としてもなかなか悩んでいたところは覚えております。

そういった中で、今回、映画やドラマ撮影、アニメ題材と書いていただいているんですけども、以前はフィルムコミッションという、やはり映画がメインだったんですが、現在まさにアニメです。こちらのほうが、より聖地化しやすいというのもありまして、いろんなところで力を入れてあるというふうに思っております。

「孤独のグルメ」です。私も見ていますけども、ちょっと羨ましいなとも思いながらなんですが、やはりああいう聖地化しやすい、一般的に旅行に行ったときも、「孤独のグルメ」に載っているお店に行くとか、そういう経済効果も非常に多くありますし、こういった聖地化しやすいところに関して、特に力を入れていきたいなと思っております。

今度、尋スタジオさんというアニメ会社も壱岐にできますので、またそういったところとも連携しながら、アニメというのは長崎県のほうでも、やはり聖地化しやすいというふうな話もされてありますので、このアニメという切り口は、今まで余り壱岐ではなかったのかなと思っておりますので、そこには取り組んでいきたいなというふうには思っております。

一方で五島です。私も東京事務所にいるときに、五島市にいろいろ聞いていたんですけど、PR費としては、かなりお金を使ってあるというのはあるんですが、やはり有名人の方がいらっしゃるったりとか、結構、五島の漫画家の方とか、そういった出身の方が非常に多くいらっしゃるというの、メディア化される理由の一つかなというふうに思っております。

ただ、やはりそういった朝ドラとかで、どんどん露出が出れば出るほど、業界内で、また口コミとか話題になるというふうなところがあって、今ちょうど五島市に関しては好循環になっているのかなというふうに思っておりますが、やはり一歩目を進めないと、この好循環も始まらないと思っておりますので、先ほどの答弁の中にもありましたけれども、現在、東京事務所と観光連盟でメディアとの関係性を深めるというような事業も行っておりますので、その辺りから力を入れながらやっていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（小金丸益明君） 赤木議員。

○議員（15番 赤木 貴尚君） 答弁ありがとうございました。最初に言いましたが、非常に夢がある事業だと思っておりますので、そして、いろんな場面で、昔こうだったよ、ああだったよという話が出てきます。

今日の今回の「波光きらめく果て」の撮影のことに関しては、私も当時、高校生であって、平本部長だったり、目良次長だったりも高校生だったと思いますので、その当時のお話は、また今度できると思いますし、昔のこういう撮影の状況をみんなで思い出して、掘り起こして、そしてそれをどこかにつなげようというふうにして、壱岐の島でそういう映画やドラマやアニメの題材とかに取り上げられるように、どこかでつながっていけばなと思っております。

壱岐出身のアニメで活躍されている方も、ちょっと遠くに、東京におられる方も知り合いですし、そういう方たちに、またこういう形で市長の答弁を聞いて、本当にアプローチできればなと思っております。

いろんな角度で壱岐が表に出るためには、今度、壱岐高校生の甲子園の出場がかなうこともそ

うですし、このように映画やドラマやアニメでぜひ取り上げられることもそうですし、ワクワクするようないろんな取り上げ方で、島全体が盛り上がればなと思っておりますので、またよろしくお願いしたいと思います。

私の質問は、以上で終わりたいと思います。ありがとうございました。

〔赤木 貴尚議員 一般質問席 降壇〕

○議長（小金丸益明君） 以上をもって、赤木貴尚議員の一般質問を終わります。

○議長（小金丸益明君） ここで暫時休憩いたします。再開を11時とします。

午前10時50分休憩

午前11時00分再開

○議長（小金丸益明君） 再開いたします。

休憩前に引き続き一般質問を続けます。

次に、6番、中原正博議員の登壇をお願いします。

〔中原 正博議員 一般質問席 登壇〕

○議員（6番 中原 正博君） 皆さん、おはようございます。12月会議最後の一般質問、今年の大トリを務めさせていただきます。

それでは通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。今回、大きく2点の質問をさせていただきます。

まず1点目は、国民宿舎壱岐島荘についてです。

国民宿舎壱岐島荘は、私たちの幼少期からあり、子どもクラブ、同級生、友人などでよく利用していた記憶があります。

また、幼稚園のときだったと思いますが、当時の皇太子殿下、現在の上皇様ですが、壱岐に来島され、その際、沿道で国旗の旗を振った記憶があります。その後、壱岐島荘に宿泊をされておられ、由緒正しい宿泊施設です。この施設をいつまでも存続させたいという思いから、今回、壱岐島荘について質問をいたします。

壱岐市の指定管理施設であります国民宿舎壱岐島荘は、今回、労働基準監督署の調査が入り、ハローワークから数か月間、求人募集を停止されているとの情報がありますが、これは事実なのか。また事実であれば、市のほうで把握はされているのか。また、原因究明と指定管理者としての対応はどのようにされるのかお尋ねいたします。

また、鯨伏地区の住民が中心となり、地域の発展と湯本温泉街を活性化させるため、10年ほど前、湯本きばろう会を発足されております。

その際、当時の市長さんより、きばろう会に壱岐島荘から誰も入っていないので、会に入ってもらい、一緒に湯本の温泉街を活性化させるため頑張ってくださいということでしたので入会していただきましたが、数年前から月1回の定例会も出席がなく、行事にも参加をされていないということでした。

壱岐島荘は、市の指定管理施設であり、地域のために貢献することも役割と考えますが、市の見解をお伺いいたします。

○議長（小金丸益明君） 中原正博議員の質問に対する理事者の答弁を求めます。塚本企画振興部長。

〔企画振興部部長（塚本 和広君） 登壇〕

○企画振興部部長（塚本 和広君） 6番、中原議員の国民宿舎壱岐島荘についての御質問にお答えいたします。

労働基準監督署から、今年の6月に職員の時間外勤務については是正勧告を受けて、令和6年6月18日から令和6年12月17日までの半年間、ハローワークでの求人募集停止となっております。

このことについては市へも報告があり、市からは法令遵守を徹底し、理事会、評議委員会へも報告し、対策を取るよう指示しております。

11月21日に開催されました壱岐市開発公社理事会において、この件について報告が行われ、改善に向けた取組を理事会で説明されております。また、市としましても、今回の時間外勤務の件を含め、現場の状況を把握するため、職員からの聞き取りも行っております。

今回の件については、職員給与規定に定められております時間外勤務の取扱いについて厳格に運用されていなかったことに起因しており、規定どおりの運用をするように、市からも指示しております。

また、湯本きばろう会への定例会への参加については、壱岐島荘は市の指定管理であり、地域に貢献することも重要な役割であると認識いたしております。地域活性化を目的とした湯本きばろう会の定例会への参加については、参加することが望ましいと考えておりますので、指定管理者と協議してまいります。

以上でございます。

〔企画振興部部長（塚本 和広君） 降壇〕

○議長（小金丸益明君） 中原議員。

○議員（6番 中原 正博君） 昨年の中頃から、料理人員が3名ほど辞めているということも聞いております。それで少ないスタッフでの業務は一人一人に負担がかかり、また辞める人が出てくるのではないかと危惧されます。

もしそうであれば、早めの対応が必要と考えますが、今、雇用はできているのか、お伺いいたします。

○議長（小金丸益明君） 塚本企画振興部長。

○企画振興部部長（塚本 和広君） 中原議員の御質問にお答えをいたします。

厨房のところの人数がなかなか足りていないというところで、今現在はパート、アルバイト、そういったところを含めて人数的にはいるような状況でございますが、正規の職員といたしますか、そういったフルタイムの職員を雇っていききたいと、今、考えておるところでございます。

おてつたびという制度もございまして、旅をしながらそこで仕事をしていくという制度もございまして、そういったものも活用しておりますけれども、今回募集停止が明けましたら、またハローワークのほうにもお願いをしまして、募集をかけていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（小金丸益明君） 中原議員。

○議員（6番 中原 正博君） やはり今、昔から見たらといたしますか、料理のほうも、結構、昔から見れば評判がいいと聞きます。それで、やはり壱岐は料理、魚とか、そういうのがおいしいので壱岐に来られるという方もおられますので、そういった厨房とか料理人は、ちゃんとした人を確保していただきたいと思っております。

それと、昨年、老人会の方から、食事会をした際カラオケをしようと思っていたが、カラオケはないと言われたということでした。現在は予約制ということで、予約をすればカラオケ機はあるということですが、やはり食べたり飲んだりして盛り上げて、カラオケでもというときもあると思います。

今回の条例改正で宿泊料、利用料が引き上げる議案が提出をされておりますが、これについては物価高や最低賃金の上昇等で仕方ないと思いますが、利用料を上げるのであれば施設の充実も考えてほしいと思いますが、この件に対して何かあればお願いします。

○議長（小金丸益明君） 塚本企画振興部長。

○企画振興部部長（塚本 和広君） 中原議員の御質問にお答えをいたします。

今回の値上げにつきましては、物価高騰というところで値上げのほうをお願いしているところでございますが、先ほどございましたカラオケのところにつきましては、ちょっと運用上、なかなか予約制にしないとやっていけないというところがございますので、何かいい方法がないか、今後検討していきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（小金丸益明君） 中原議員。

○議員（6番 中原 正博君） やはりお年寄りの方に聞いたら、自分たちも年だから2次会、

3次会とかは、もう行かれないので、ここでちょこっと御飯を食べて、1曲でも歌って帰ろうという方が多いということですので、上等のカラオケ機じゃなくてもいいと思います。それと1曲幾らかとか、前は取っていたんですかね。それか通信カラオケとかもリースとかあるのではないかと思いますので、そういったところも、もし活用できるのなら、カラオケぐらいは入れていただきたいなと思っております。

それで、我々が先ほども言いましたが、小さい頃行っていたときには、ゲーム機とか卓球台とかあって、小学生とか中学生、小さい子どもも行っていたと思うんですが、今はそういうのもないので、多分、高齢者が主になっているのではないかと思っております。

費用対効果等もあるんでしょうけど、そういう子ども向けの何かそういうのができれば、また子連れとかそういうお客様も増えるのではないかと思っておりますが、そういった考えとかはないのかお尋ねをいたします。

○議長（小金丸益明君） 塚本企画振興部長。

○企画振興部部長（塚本 和広君） 中原議員の御質問にお答えをいたします。

昔、卓球台とかがあったということをごさいます、私も記憶しております。現在、ロビーのほうに売店を出しております。この売店が非常に売行きがよろございますので、経営の助けになっているところをごさいます。

また、親子連れとかが来たときに遊ぶところがあればというところをごさいますけれども、なかなか今、売店を前に出している状況をごさいますので、余裕のある場所等があれば、また壱岐島荘のほうとも相談をしていきたいと思っております。

以上をごさいます。

○議長（小金丸益明君） 中原議員。

○議員（6番 中原 正博君） 分かりました。

前、猿山、猿がいたと思うんですが、あそこの空き地を、何か子どもが遊べるようなそういった施設を造ったりとかできないのでしょうか。

○議長（小金丸益明君） 塚本企画振興部長。

○企画振興部部長（塚本 和広君） 中原議員の御質問にお答えをいたします。

その辺を含めまして、ちょっと壱岐島荘のほうと相談できればと思っております。

以上をごさいます。

○議長（小金丸益明君） 中原議員。

○議員（6番 中原 正博君） 分かりました。冒頭言いましたように、やはり壱岐島荘を今までリニューアルもされて、やっぱり由緒ある施設と思っておりますので、今後ともずっと存続できるように、職員の指導とか、そういうのもよろしくお願ひしたいと思っております。

それでは、次に入りたいと思います。

次に、マイナンバーカードの有効活用についてです。

マイナンバーカードは平成28年度から運用が開始され、9年がたっており、当初は国民を番号で縛りつけるのかとか、個人情報の漏えいはないのかなどの声もあり不安もありましたが、普及率は、2023年の統計ですが、全国で約70%、長崎県で約73%となっており、年齢別では、ゼロ歳から4歳児が一番普及率は低く、75歳から79歳が一番普及率は高くなっております。

そこで、3点質問いたします。

現在、壱岐市でのマイナンバーカードの普及率と年齢別の普及率をお伺いいたします。

2点目、今、マイナンバーカードを保険証として使えるマイナ保険証の交付申請もされており、今月2日より新規の健康保険証の発行が停止となります。また、令和7年3月24日より、マイナンバーカードと運転免許証も一本化できるようになるということですが、紛失や盗難のセキュリティ対策はどうなっているのか質問いたします。

3点目に、このように国はマイナンバーカードに紐づけし一本化していく中で、マイナンバーカードをいつも携帯しておく必要があります。今、壱岐市は有人国境離島法により航路、航空路の低廉化がなされており、島民カードを提示することで運賃が安くなっておりますが、島民カードだけではなくマイナンバーカードの提示でも運賃の割引ができないのかお伺いいたします。

以上、3点お伺いします。

○議長（小金丸益明君） 吉田市民部長。

〔市民部部長（吉田 博之君） 登壇〕

○市民部部長（吉田 博之君） 6番、中原議員のマイナンバーカードに関する御質問のうち、①と②につきまして、市民部のほうでお答えいたします。③につきましては、総務部のほうの回答になるかと思っております。御了承お願いいたします。

まず、マイナンバーカードの普及率、それから年齢別の普及率ということでございます。

総務省が公表しております令和6年11月末現在におきます保有率、マイナンバーカードの保有率でございますが、全国の保有率が76.3%、長崎県は78.9%、同じ月で、壱岐市の保有率は82%というのが現状でございます。

次に、同じく11月末現在の住民基本台帳人口に基づく年齢別のマイナンバーカードの保有率でございますが、10歳未満が78.3%です。10代、88%、20代、86.1%、30代、82.8%、40代、86.3%、50代、86.5%、60代、88.1%、70代、87.2%、80代、78.6%、90代、54.7%、ちなみに100歳以上の方が22.9%となっております。

②に、紛失や盗難のセキュリティー対策についての御質問がありましたので、お答えさせていただきます。

マイナンバーカードにつきましては、対面及びオンライン上での本人確認が主な機能となり、御承知だと思いますけれども、カードの表面には、氏名、住所、生年月日、性別の基本4情報と顔写真があります。裏面には、これらに加えて12桁のマイナンバーカードが、数字とQRコードで表示されております。

また、裏面に搭載されたICチップにつきましても、これらの個人情報が格納されておりますけれども、このICチップには、皆さんが御心配されているような、特に税や年金の情報、健康保険証の内容や医療情報など、プライバシー性の高い情報はカード自体には入っておりません。

このため、マイナンバーカードを紛失した場合、カードを取得した第三者につきましては、前述の基本4情報と顔写真、マイナンバーが特定されることとなりますけれども、個人を識別する番号にすぎませんので、行政や年金事務所などの個人番号利用事務実施者及び個人番号関連事務実施者しか、マイナンバーにひもづいた個人情報ファイルにアクセスできないような仕組みとなっております。

さらに、この利用には暗証番号が必要でありまして、一定回数間違えるとロックがかかります。また、ICチップから不正に情報を読み出そうとすると、自動で壊れる仕組みとなっております。

偽造防止対策としましては、カードの文字はレーザーにより彫り込まれている上に、複雑な採紋パターンを施すなど特殊加工も施されているため、顔写真を含めた券面の偽造は難易度が非常に高いと思っております。

また、もしマイナンバーカードを紛失したとしても、写真つきのため第三者が容易になりすまして利用することはできませんし、コールセンターに電話をすれば、24時間365日、一時停止依頼を受け付けておりますので、ここで御報告をさせていただきたいと思っております。

以上です。

〔市民部部長（吉田 博之君） 降壇〕

○議長（小金丸益明君） 平田総務部長。

〔総務部部長（平田 英貴君） 登壇〕

○総務部部長（平田 英貴君） 6番、中原議員の3点目のマイナンバーカードと島民カードのいずれかの提示で割引ができないかという御質問にお答えをいたします。

国境離島島民割引カードは、国境離島航路・航空路運賃低廉化事業の対象者であることを確認するために、平成29年度から発行いたしてありまして、県内統一様式のカードを作成し、航路、航空路ともに利用することができるようになっております。

議員が言われるように、マイナンバーカードの提示により運賃割引が可能となれば、市民皆様

の利便性向上につながるものと考えますが、一方で、航路、航空路事業者においては、対象者の確認を徹底する必要がある、特に航空路におきましてはコードシェアの運行となっていることから、全国どこでもチケットの購入が可能であり、販売窓口での対象路線及び対象者の判断が、マイナンバーカードや免許証、保険証等では難しいという理由によりまして、制度導入当初から現在まで、国境離島島民割引カードに限られているところでございます。

また、島民カードは、壱岐市であれば黄色、対馬市は青、五島市は緑など、各航路ごとに色分けを行っており、複数の路線を有する販売窓口での確認を容易にし、窓口での混雑を緩和するために発行しているという理由もございます。

しかしながら、保険証や運転免許証をマイナンバーカードと一体化するなど、国民の利便性の向上と負担軽減の方針が国からも打ち出されておりますので、国境離島島民割引カードの活用について、市民皆様の利便性向上のため、県や関係市町、航路事業者と連携し検討を進めてまいります。

以上でございます。

〔総務部部長（平田 英貴君） 降壇〕

○議長（小金丸益明君） 中原議員。

○議員（6番 中原 正博君） 普及率につきましては、全国、県から見ても壱岐市は本当にいいと思います。これは職員の出張によるカードの申請、設定などが、職員のおかげで普及は進んでいると思っております。

しかしながら、先ほど吉田部長が説明されて分かりますが、まだ不安な方もたくさんおられます。私もテレビ等で聞いて、カードを紛失しても、カード自体には名前や住所以外の情報が入っておらず、暗証番号、顔認証で本人と特定されない限り情報は分からないということもお聞きしております。今、部長への質問で、市民皆様も少しは安心をされているのかなとは思っております。

それで、島民カードのマイナンバーカードとの一体化ですけど、島外へ行くため、切符を買うときに島民カードを忘れたのでマイナンバーカードでは駄目かと聞いたら、やはり島民カードがないと駄目と言われたという方もおられます。

それと、島民ということは分かるのに、なぜ駄目なのかということでも言われる方がおりますが、それと、期限が切れたということで通常の運賃を取られたという方もおられ、これは期限があるので仕方ないと思うのですが、切られたら駄目というのも分かりますが、更新してから後日持ってくればいいということではできないのか、お尋ねをいたします。

○議長（小金丸益明君） 平田総務部長。

○総務部部長（平田 英貴君） 中原議員の御質問にお答えをいたします。

島民カードを忘れられたというような中で、マイナンバーカードで住所等を確認できるじゃないかということで、その割引の対象にできないかという御質問であったかと思えますけれども、やはり、お気持ちは十分分かりますけれども、五島、対馬、新上五島町等々、県内同様の形で取扱っております、その事業者にもこのカードで確認をしてくれということで徹底がなされているものですから、島民カード以外のものを提示をされると、やはり、今の段階では割引の対象を受けられないということとなっております。

ただ、先ほどの答弁もいたしましたけれども、これからマイナンバーカードの普及もさらに進むということで考えておりますので、県内、県も含めまして県内の離島市町と、そして航路、航空路の事業者とともに、マイナンバーカードでの対象にならないかというようなところの話も進めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（小金丸益明君） 中原議員。

○議員（6番 中原 正博君） 分かりました。これは、もう県というか、マイナンバーカードを提示するというのは、今の時点ではもう決まっているのは駄目ということですね。

今後、今、部長が言われましたように、国がそうやってマイナンバーカード一つでできるようにしているので、今後、何らかの形で、何か前に書けるようなところがありますので、島民カードとみなすような印鑑か何かを貼れば島民カードとして利用できるようなことを、今後、県とかも相談して利便性がいいようにしていただきたいなと思っております。

一応、通告により終わりますけど、今、12月に入って寒い日が続いております。そして、インフルエンザもはやっておりますので、どうか市民皆様には健康には留意されまして、輝かしい新年を迎えていただきたいと思います。

市民皆様にとって、来る年がすばらしい年であることを祈念いたしまして、私の一般質問を終わります。

〔中原 正博議員 一般質問席 降壇〕

○議長（小金丸益明君） 以上をもって、中原正博議員の一般質問を終わります。

これで一般質問を終わります。

○議長（小金丸益明君） 以上で、本日の日程は終了いたしました。

これで散会いたします。皆さん、お疲れさまでした。

午前11時28分散会
